

2.11

開場 13:30
開演 14:00-16:30
会場 さくらホール
(小ホール)
武蔵村山市役所隣

第31回教育市民集会

子どもの命をはぐくみ未来を守る市民集会

戦争する国づくり・戦争肯定の教科書採択反対

講演 池田 香代子 さん

「戦争する国づくりと集団的自衛権・憲法」



教育現場より 糞谷 陽子 さん

●子どもと教科書全国ネット21常任運営委員

「集団的自衛権と『教育再生』・教科書採択」

～子どもと学校はどうなる～

●ドイツ文学翻訳者、教育子育て九条の会呼びかけ人、児童文学者、平和運動家、「世界がもし100人の村だったら」など著書多数

「戦争に行かされる私たちの意見を聞かずに話をすすめるのはやめてください」
(中学生・女子)

僕ら、戦争に行かされるの？

「戦争に行かせるために、産み、育てたわけじゃないのに。大切な子どもを戦争に行かせたくない」
(中学生の母)



○会場の「さくらホール」は武蔵村山市役所南側、駐車場もあります。



参加費 300円 (高校生以下無料)

お問合せ先 090-1458-4612 (坂田)

主催 戦争する国づくり・戦争肯定の教科書採択反対
武蔵村山市民集会実行委員会

命と平和の大切さ学ぶ教育と教科書を

—— 子どもたちの命と未来のために ——

集団的自衛権とは日本が攻撃されていなくても、同盟国と一緒に海外の戦争に参加することをいいます。具体的にはアメリカの戦争に日本の若者が駆り出され、「殺し、殺される」こととなります。安倍首相は戦場で武器を使用することを明言しています。

戦場で人を殺して後悔したくない

～子どもたちの心からの願い～



「『もう戦争なんてしない社会』と思っていた小学生の頃とは違い『戦争が起こる可能性がある社会』になったのだ」

「自分が戦場に行って人を殺してしまったという後悔はしたくない。戦争はいけないことだと教わってきたのに、いきなり戦争OKにされても適応できない…」

集団的自衛権容認の閣議決定後の中学生の声です。

子どもたちは、これからの日本の姿と自分たちの将来に、大きな不安と疑問を抱いています。

子どもたちの心をねじ曲げ、戦争肯定へ

究極の偏向教育…「教育再生」

安倍内閣はこの中学生のような意識・考え方を、戦争を肯定する意識・考え方へと「教育再生」でねじ曲げようとしています。

この間進められている「教育再生」では、教科書の検定基準を変えて「政府の統一の見解に基づいた記述」を出版社に求めています。また、道徳を「特別の教科」にして「愛国心」など国が決めた「徳目」を、国が作った教科書で教え込もうとしています。

このまま「教育再生」がおし進められるならば、国や政府の意向が子どもたちに教え込まれ「戦争できる国」を支える人材が教育によってつくられることになります。



憲法軽視 戦争肯定の育鵬社教科書

武蔵村山市の中学校で使用

「教育再生」を進める人達は2015年夏におこなわれる育鵬社教科書の採択結果に、「教育再生の成否がかかっている」と位置付けています。育鵬社教科書は「戦争できる国」を支える人材づくりに欠かせないのです。



例えば、日本国憲法の基本原則^(※)は他社の教科書の半分、6行で説明。戦争する社会体制を作り出した明治憲法を「本格的な近代憲法」などと高く評価しています。平和主義のページでは、平和のことよりも「自衛隊は憲法に違反しない」「集団的自衛権を行使できる」などの見解を記しています。

アジア太平洋戦争については「大東亜戦争」との表記も使い、「わが国の勝利は東南アジアやインドの人々に独立への希望を与えた」などと、侵略の事実をふれず、アジア解放の戦争として描き出しています。

「子どもへの教育の仕方でもみんなの考えがガラッと変わってしまうのだということが分かりました」太平洋戦争・戦前の教育を学んだ中学生の感想です。

(※)日本国憲法の基本原則: 基本的人権の尊重、国民主権、平和主義

学校は命はぐくみ希望を語る場所

「どうか、大きくなったら立派に死ぬ人になって下さい」これは戦前、1942年に転校した小学校4年生に届いた前の担任からの手紙です。「天皇陛下のために死ぬ魂のお勉強…」とも綴られています。

学校は命を育み希望を語る場所、平和な未来に生きる力をつける場所です。この手紙のように、死ぬことを美化し、「人を殺し、殺される」覚悟を持たせる場では断じてありません。